

研究発表（１）「京都文教大学図書館のこれまでの地域連携活動について」

京都文教大学図書館 野々山 功一

京都文教大学は、1996年（H8）に京都文教短期大学のある京都府宇治市のキャンパスに開学以来、仏教精神に基づく人間教育を標榜し、建学の理念である「四弘誓願（しぐぜいがん）」の教えに従い、『地域社会、市民に広く「開かれた大学」を実現すること』をめざして今日まで研究教育・社会貢献を推進してきた。

中でも本学の地域連携推進の大きなきっかけの一つは、2010年（H22）2月に地元宇治市と締結した「宇治市と京都文教大学並びに京都文教短期大学との連携協力に関する協定書」である。

2012（H24）年度には、文部科学省「大学間連携協働教育推進事業」に連携校として採択、さらに2014（H26）年度には、京都府の私立大学としては唯一、文部科学省「地（知）の拠点整備事業（COC）」採択を受け、「京都府南部地域ともいき（共生）キャンパスで育てる地域人材」に取り組むなど、全学を挙げて社会貢献や地域連携を中心とした教育・研究を進めてきた。

ともいき（共生）キャンパスには、地域をキャンパスとして学生が活動するという意味と地域の方々が本学キャンパスを地域のキャンパスとして利用するという意味の2つの意味が込められている。

そのような中、2012年（H24）には、「宇治市図書館と京都文教大学図書館・京都文教短期大学図書館の連携協力に関する覚書」を締結し、図書館としての地域連携活動を徐々に推進してきた。

今回の報告では、当館がこれまでおこなってきた様々な取り組みを事例として紹介し、地域社会における大学図書館の役割とは何か、また大学図書館として何ができ、何が課題なのかなどについて参加者の方々と一緒に考えるきっかけとしたい。

研究発表(2)「大学図書館の学外者向けのウェブページについて」レジュメ

美作大学 二宮敦

本研究発表では、全国の大学図書館のウェブページのうち、学外者向けのウェブページについて概観し、傾向の分析といくつかの提言を行う。調査対象 638 館のうち、学外者向けウェブページが存在しているのが 473 館 (74.1%) であった。対象の 473 館について、主要な 11 項目の記載の有無を確認した。その結果、「館外貸出」「コピー」について記載している館の割合が、それぞれ 422 館 (89.2%)、335 館 (70.8%) と抜きんでて多いことが分かった。11 項目の他、記載を検討すべき項目の候補として、9 カテゴリー 66 項目を挙げる。

次に、学外者向けウェブページが、大学図書館のトップページから何階層下にあるかを計測した。その結果、1 階層下 (80.5%) や 2 階層下 (16.9%) など、大半の館で浅い深度に学外者向けウェブページが配置されていた。

また、大学図書館で使われる用語は、利用者にとって理解しづらい用語が多い。今回の調査でも、明らかに図書館関係者以外にとって不親切な用語が学外者向けウェブページに使われている事例が散見された。

また、学外者向けウェブページのリード文 (導入文) は、大学図書館の開放目的や理念等を表明する場であるが、リード文を配している館は 35 館 (7.4%) と非常に少なかった。印象的だった数館のリード文を紹介する。

最後に、構成や説明が優れていると感じた学外者向けウェブページとして、東京医科歯科大学図書館と愛媛県立医療技術大学図書館の 2 例を紹介する。学外者向けウェブページの構成や表現は、各館の環境や規模、想定される利用者層や来館者数・来館頻度などに合わせて組み立てるべきで、すべての大学図書館に当てはまる正解はない。その上で、今後に向けての展望を述べ、本研究発表を結ぶ。

研究発表 (3) 「大学コンソーシアムせと 図書館連携プロジェクトについて」

愛知工業大学附属図書館 榊岡 憲司

「大学コンソーシアムせと」は、愛知県瀬戸市と近隣の大学の教職員・学生が協働して、地域・社会貢献のための新しい仕組みや文化を創成することを目的に 2005 年度に設立され、「新しい文化創造プロジェクト」として様々な事業を行っている。

「新しい文化創造プロジェクト」の各事業の 1 つとして、瀬戸市立図書館と「大学コンソーシアムせと」加盟大学の図書館による連携事業(図書館連携プロジェクト)を 2017 年度より実施している。

直近の 2022 年度では、不読率が高い状況にある高校生の読書への関心を高めることを目的とした「高校生読書活動推進プロジェクト」として、高校生に焦点を絞った読書推進活動に取り組んだ。

「高校生読書活動推進プロジェクト」のプロジェクトメンバーは、瀬戸市立図書館職員ならびに「大学コンソーシアムせと」加盟大学の図書館職員になっているが、実際の企画・運営は、「大学コンソーシアムせと」加盟大学の学生有志によって構成された「学生運営委員会」が主体となって行われたものであり、対象となる高校生と年齢が近い大学生の若い感性を活かした企画・運営によって行われた取り組み事例を紹介する。

また、この取り組みは、大学生の地域・社会貢献活動の参画、他大学との学生交流・協働作業など、学生にとっては通常の学生生活上では得ることはできない貴重な経験の場になった事例でもある。

今回の発表を通じて、今後の大学図書館としての地域・社会貢献の在り方などを、加盟館の皆様と一緒に考える機会となっただけであれば幸いである。